和歌山信愛中学校

入学試験 A 日程 (午前)

玉 話 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

この問題冊子は1ページから19ページまであります。

開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。

受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。

 \equiv 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。

兀

終了のチャイムが鳴ったら、

問題冊子の上に、

解答用紙を

開いたまま裏返して置きなさい。

〈解答は、 句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

【一】次の問いに答えなさい。

問一
(1) (4) (2)
線
線部の漢字のは
の読みをひらがな
らがなで
答えなさい
また、
(5) (8) (9)
線部の
ひらがなを
漢字に直し
なさい。

(5)

いっそうの努力をする。

6

この服がひょうじゅんの大きさです。

- ② 勇気を奮う。
- ③ 詩を朗読する。
- ④ うちの犬は利口だ。

- ⑦ 国連にかめいする。
- ⑧ りっけん政治を行う。
- 問二 次の①~③について、矢印の向きで読んだときに二字の熟語が四つできるように、[] に入る漢字一字をそれぞれ答えなさ

材

1 (例) 宿 口 習 話 → 名 → 活 答え :: 2 題 決 見 味 3 人 利

反 →

得

主 →

↓ 力

- ① もっと ア大きな イ声で ウ歌いましょう。
- ② アごらん、 イあそこで ウガシオペア座が 光るのを。
- ④ アおこづかいで こっそり イおいしい ウケーキを エ買う。 ③ ひらひらと ア音も イ立てずに ウさくらの エ花びらが オ散る。
- 海の アはるか イ向こうに ウ過ぎ去る エ船を オ見送る。

(5)

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

Ι 優越感を感じたいだけではないか、「こんないいことをしましたよ」と周りの人に自慢したいだけなのではないか……と考え出す と、①自分でも不安になってしまう。 わった人だ」「もの好きだ」となるかもしれないし、 る人は偉い、感心だ」こんなふうに言う人は好意的な人だ。その気持ちが少し皮肉な側に傾けば、ボランティアをする人は そう言われたとき、ボランティアをする人は考え込んでしまうかもしれない。自分のしていることが、「見返り」を求めない 「ボランティアってのは、 行為だという自信がないからである。もしかすると自分は、 自分にとって一銭の得にもならないことを一生懸命やっているみたいだ。だから、ボランティアをす 反発心が混じれば、「 自分の力を誇示したいだけではないのか、 Α 」となりかねない。 弱い者と接することで

そう思うし、 ② 私 は、 ボランティアをするのはある種の 考え方の枠組みとして、 とりあえずそのような想定をしてから出発することが有効な※アプローチであると思う。 報 酬。 を求めてであるからにちがいないと考える。 私自身の限られた経験からも

問題は、「報酬」をどう考えるかということである。

か他の ものを誰かから与えられることを期待して、 ーションが可能なものである。その人がそれを自分にとって「価値がある」と思い、しかも、それを自分一人で得たのではなく、誰 ボランティアをする人はこの広い意味での ボランティアをする人にとっての 人の力によって与えられたものだと感じるとき、その 「報酬」とは、もちろん、 行動するのである。 「報酬」を期待して、つまり、その人それぞれにとって、 「与えられた価値あるもの」 経済的なものだけとは限らない。その人によっていろいろなバリエ その意味で、ボランティアをする人は、新しい価値を発見し、そ がボランティアの 自分が価値があると思える 「報酬」 である

れを授けてもらう人なのだ。

 Π

ボランティアの 「報酬」について a | わかりにくいところがあるとしたら、その本質が「閉じて」いてしかも

V るという、 一見反対に見える二つの力によって構成されているからではないだろうか。

らとかいう「③外にある権威」に従うのではなく、何が自分にとって価値があるかは、 人が何に価値を見いだすかは、その人が自分で決めるものである。 価値を認知する源は 他人に言われて、 自分の「色内にある権威」 規則で決まっているから、 に従って決める はやっているか

ものだ。

その意味で、

「閉じて」いる。

酬 たりするとき、 する人が、 自 らすること、 1の体験と論理と直感だという意味で「閉じて」いるが、それが相手から与えられたものだという意味で「開いて」いる。 「内にある権威」に基づいていることと、 は入ってこない。このように、 相手から助けてもらったと感じたり、相手から何かを学んだと思ったり、誰かの役に立っていると感じてうれしく思っ ボランティアをする人は、必ず相手との相互関係の中で価値を見つけている。 「強い」のは、それらの力の源が「閉じて」いて、 ボランティアの 自発的に行動すること、 「報酬」 は、 それを価値ありと判断するのは、 何かをしたいからすること、きれいだと思うこと、楽しいか 外からの支配を受けないからだ。しかし、ボランティアを b 「開いて」いなければ 「外にある権威」ではなく、 報 独

とであるとともに、楽なことだ。うまくいかなくとも、 してしまうことになる。それでは、 し、「外にある権威」だけに従って判断をするということは、物事をある平面で切り取り、 外にある権威」 だけに基づいて行動すること、つまり「開いている」だけの価値判断によって行動するのは、 何も新しいものは見つけられないし、だいいち、 自分のせいではないし、 いつでも言い訳が用意されているのだから。 楽しくない。 それと自分との関係性を初めから限定 わかりやすいこ しか

値は だけ、 迷うこともないわけだから、 「閉じている」ことと「開いている」ことが交差する一瞬に開花する。 または | 、「閉じて」いるだけの価値判断によって行動するのも、 「閉じている」だけの行動は、 楽なことである。 わかりやすく、 しかし、 そこからは※排他性とか独善しか生まれない。 楽であるかもしれないが、 自分の心に従うだけなので、 力と魅力に欠けるということだ。 周りのことを考えなくてもよく、 つまり、 '開いている」 新しい価

 \blacksquare

のである。 として成立するには、 らないということだ。ボランティアをする人が「報酬」を受ける※プロセスとは、「つながりをつけるプロセス」にほかならない ボランティアの「報酬」は「見つける」ものであると同時に「与えられる」ものであるということは、新しい価値が ボランティアをする人の力と相手の力が出会わなければならない、つまり、つながりがつけられなければな 「報酬」

ティアの「不思議な関係」 イアをする人は あけておいた「ふさわしい場所」 「報酬」を受け取ったのである。助けるつもりが助けられたと感じ、与えるつもりが与えられたと感じる。 の秘密は、この「つながり」というところにあったのだ。 に相手から力を注ぎこんでもらい、それが自分にとって価値があると感じたときに、 ボ ボラン ランテ

(金子 郁容 『ボランティア もう一つの情報社会』より)

注 ※ アプローチ … 接近すること。

排他性 … 自分の仲間以外のものをすべてしりぞけること。

*

※ プロセス … 道筋

本文中の に当てはまる最も適当な言葉を次の中から選び、 記号で答えなさい。

問

アボランティアは偽善的だ

イ ボランティアは精神的だ

ウ ボランティアは意欲的だ

エ ボランティアは合理的だ

オ ボランティアは好意的だ

−線部①「自分でも不安になってしまう」とありますが、それはなぜですか。本文中から四十字以内でぬき出し、最初

と最後の五字を答えなさい。

問三 の五字を答えなさい。 ボランティアの「報酬」とはどのようなものであると筆者は述べていますか。それに当たる一文を本文中からぬき出し、最初 線部②「私は、ボランティアをするのはある種の『報酬』を求めてであるからにちがいないと考える」とありますが、

問四 本文中の a 5 С に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。 ただ

同じものを二度選んではいけません。

ア

つまり

1

一方

ウ

または

工

たとえば

才

もし

- 6 -

選び、記号で答えなさい。

ア 担任の先生に言われて、クラスの有志で被災した人たちに募金をした。

1 小学校の学校行事として、クラス全員で学校の近くにある海岸のゴミ拾いをした。

ウ 町内会の規則で決まっているので、毎年八月の最後の日曜日には公園の草刈りをする。

工 インターネットで評判になっていたから、難病の人を救うためのイベントに参加した。

オ 小学校五年生になってから、 毎週日曜日に一人で近所の神社の清掃をするようにした。

問六 線部④ 「内にある権威」とありますが、それをわかりやすく言いかえている部分を、本文中から十一字でぬき出しな

さい。

問七 ますが、 て、「楽」である理由を、本文中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。 なぜ「楽」なのですか。(i 線部⑤ 「『開いている』だけ、 「開いている」だけの行動の場合、 または『閉じている』だけの行動は、 (ii「閉じている」だけの行動の場合、それぞれについ わかりやすく、楽であるかもしれない」とあり

- 信 子 いてあるでしょ。これって、 本文の |||||||||||に、「ボランティアの『報酬』は『見つける』ものであると同時に『与えられる』ものである」って書 Ⅲ にある「閉じて」と「開いて」というのと対応しているんだよね。
- 愛子 そうだね。「【X】」「開いて」「与えられる」と「【Y】」「閉じて」「見つける」は、二つのグループに分け

られるよね

- 信子 ね、 「開いて」いるだけでは、「見つける」ことができないっていうのが、どうしてもわからない。 それはわかるよ。そして、「与えられる」ためには、「開いて」いなければいけないっていうのもよくわかる。 ただ
- 愛子 ことじゃない。 書いてあるじゃない。 Ⅲ に「『開いている』だけの価値判断によって行動する」ことは、「 【 X 】だけに基づいて行動すること」だっ つまり、 誰かに強制されてボランティアをしても、 何も「見つける」ことができないっていう
- れて、 なって、お母さんから「もう帰るよ」って言われたときに、すごく残念に思った。そのおばあさんもすごく残念がってく けど、そこで、あるおばあさんと話をしているうちに、だんだん楽しくなってきて、もっと話を聞きたいって思うように 大切な何かを「見つける」ことができた気がしたんだけどなあ。 ··· そうかなあ。 帰り際私の手を取って涙を流しながら「また来てね」って言ってくれたんだ。そのとき私、人と話をするときの 私が小学校の時に、 お母さんに言われて老人会の集まりにむりやり連れて行かれたことがあったんだ
- 行動してたんじゃない? それって、 と話をしているうちに、信子ちゃんは、 でも、よく考えてみて。 確かにきっかけはお母さんに言われてむりやりだったかもしれないけど、そのおばあさん Y に従って行動していたって言えると思う。 誰かに言われたり、 規則で決まっているからじゃなくて、自分で考えて自発的に

信子 … そうか。確かにお母さんからは「できるだけたくさんのお年寄りと話してあげなさい」って言われていたんだけど、 そのおばあさんと話をしていて、これは途中で遮ってはいけないと思ったし、そのおばあさんができるだけ話をしやす

いようにすごく考えて努力したよ。

愛子 … そうだね。信子ちゃんが ┃ Y ┃ に基づいて、自発的にやったからこそ、「見つける」ことができたんだよ。Ⅲ に ことを言うんじゃない。 ある「新しい価値は『閉じている』ことと『開いている』ことが交差する一瞬に開花する」って、信子ちゃんのその時の

信 子 の『⑥不思議な関係』の秘密」が少しわかったような気がする。 なんだか、愛子ちゃんのおかげで自分がすごい「報酬」を受け取った気がしてきたな。 Ⅲ にある「ボランティア

X ك Y | に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ六字でぬき出しなさい。

(1)

次の中から選び、 記号で答えなさい。

ア ボランティアは、「報酬」を求めて行われるものではないのに、経済的なものだけとは限らないとしても、ついつい広

い意味での 報酬」 を期待してしまう点。

1 ボランティアは、 ある種の 「報酬」を求めて行われるものであるが、その 「報酬」は、「与えられる」ものであり、 自

分で見つけようとしている限り、決して手に入らない点。

ウ ボランティアは、ある種の「報酬」を求めて行われるものであるが、その 「報酬」を「見つける」ためには、「閉じて」

いることが必要となり、どうしても排他性や独善を生んでしまう点。

工

ボランティアは、

ある種の

に「与えられる」ものであるという一見矛盾したもののように思える点。

「報酬」を求めて行われるものであるが、その

報酬」

は、「見つける」ものであると同時

オ ボランティアは、「報酬」を求めて行われるものではないのに、ボランティアについて考えるとき、とりあえず「報酬」

を求めると想定してから出発すること以外に有効なアプローチの方法がない点。

ら一冊の本を探してほしいと頼まれますが、 次の文章は、 「私」は 母から、 角田光代の『さがしもの』の一節で、三十歳になった「私」が、中学二年生のころを思い出している場面で 祖母の余命が長くないことを告げられ、 大型書店の店員に店内を探してもらってもその本は見つかりませんでした。こ 祖母が入院する病院に通うようになります。そして、

「おばあちゃん、なかったよ」

れに続く次の文章を読んで、

後の問いに答えなさい。

そのまま病院に直行して言うと、 おばあちゃんはあからさまに落胆した顔をした。こちらが落ち込んでしまうくらいの落胆ぶり

「本のタイトルとか、書いた人の名前が、間違ってるんじゃないかって」

だった。

「違わないよ」ぴしゃりとおばあちゃんは言った。「あたしが間違えるはずがないだろ」

「だったら、ないよ」

おばあちゃんは私の胸のあたりを見つめていたが

っと知恵のある子だったらね、あちらこちら問い合わせて、根気よく調べるはずなんだ」 「①さがしかたが、甘いんだよ」すねたように言った。「どうせ、一軒行って、ないって言われてすごすご帰ってきたんだろ。 ŧ

そうしてふいと横を向き、そのままいびきをかいて眠ってしまった。

私はメモ書きを手にしたまま、パイプ椅子に座って空を見た。季節は冬になろうとしていた。 空から目線を引き下げると、バス

通りと、 バス通りを縁取る街路樹が見えた。 木々の葉はみな落ちて、 寒々しい枝が四方に広がってい

すぐ死んでしまう人のようにはどうしても見えない。また、もうすぐ死んでしまうのだと思っても、不思議と私はこわくなかった。 すねて眠るおばあちゃんに視線を移す。 私の知っているおばあちゃんより、 ずいぶんちいさくなってしまった。 それでも

きっと、②それがどんなことなのか、まだ知らなかったからだろう。今そこにいるだれかが、永遠にいなくなってしまうというこ

とが、いったいどんなことなのか。

んな本屋があった。雑然とした本屋、 その日から私は病院にいく前に、 書店めぐりをして歩いた。繁華街や、 歴史小説の多い本屋、店員の親切な本屋、人のまったく入っていない本屋。しかしそのどこ 隣町や、電車を乗り継いで都心にまで出向いた。 いろ

手ぶらで病院にいくと、おばあちゃんはきまって落胆した顔をする。③何か意地悪をしているような気持ちになってくる。

「あんたがその本を見つけてくれなけりゃ、死ぬに死ねないよ」

にも、

おばあちゃんのさがす本はなかった。

あるときおばあちゃんはそんなことを言った。

"死ぬなんて、そんなこと言わないでよ、縁起でもない」

言いながら、はっとした。私がもしこの本を見つけださなければ、 おばあちゃんは本当にもう少し生きるのではないか。 という

ことは、見つからないほうがいいのではないか。

「もしあんたが見つけだすより先にあたしが死んだら、化けて出てやるからね」

私の考えを読んだように、おばあちゃんは真顔で言った。

「だって本当にないんだよ。新宿にまでいったんだよ。いったいいつの本なのよ」

本が見つかることと、このまま見つけられないことと、どっちがいいんだろう。そう思いながら私は『口を尖らせた

「最近の本屋ってのは本当に困ったもんだよね。少し古くなるといい本だろうがなんだろうが、すぐひっこめちまうんだから」 おばあちゃんがそこまで言いかけたとき、母親が病室に入ってきた。おばあちゃんは口をつぐむ。母はポインセチアの鉢植えを抱かか

えていた。 手にしていたそれを、 テレビの上に飾り、 おばあちゃんに笑いかける。

「もうすぐクリスマスだから、気分だけでもと思って」母はおばあちゃんをのぞきこんで言う。

ちまう、 だから縁起が悪いんだ。 知らないのかい。 病人に鉢植えなんか持ってくるもんじゃないんだよ。鉢植えに根付くように、病人がベッドに寝付い まったく、 いい年してなんにも知らないんだから」

母はうつむいてちらりと私を見た。

「クリスマスっぽくていいじゃん。クリスマスが終わったら私が持って帰るよ」

母をかばうように私は言った。 おばあちゃんの乱暴なもの言いに私は慣れているのに、 もっと長く娘をやっている母はなぜか

慣れていないのだ。

b 案の定、 その日 の帰り、 ⑤ タクシー の中で母は泣いた。 またもや私は、 ひ、 と思う。

あの人は昔からそうなのよ。 私のやることなすことすべてにけちをつける。 よかれと思ってやっていることがいつも気にくわな

いの。私、何をしたってあの人にお礼を言われたことなんかないの」

タクシーの中で泣く母は、 クラスメイトの女の子みたいだった。 母の泣き声を聞いていると、 心がスポンジ状になって濁 四つた水

を吸い上げていくような気分になる。

と私は思った。これからどうなるんだろう? 本は見つかるのか? おばあちゃんは死んじゃうのか? おかあさんと

おばあちゃんは仲良くなるのか? なんにもわからなかった。 だって私は十四歳だったのだ。

ばあちゃんが死んでしまうなんて信じられないでいた。 クリスマスを待たずして、おばあちゃんは個室に移された。 病室では笑っている母は、 点滴の数が増え、 酸素マスクをはめられた。それでも私はまだ、 家に帰ると毎日のように泣いた。 おばあちゃん お

が個室に移されたのは、私が鉢植えを持っていったからだと言って泣いた。

かったし、 その年のクリスマスは冷え冷えとしていた。 ケーキに至っては砂糖の量を間違えたのかまったく甘くなかった。 私が夏から楽しみにしていた母のローストチキンは黒こげで食べられたものではな クリスマスプレゼントのことはみんな忘れているよ

うで、

私は何ももらえなかった。

そうして例の本も、私は見つけられずにいた。

いた店主が、たぶん絶版になっていると教えてくれた。昭和のはじめに活躍した画家の書いた、 クリスマスプレゼントにできたらいいと思って、私はさらに遠出をして本屋めぐりをしていたのだが、 エッセイだということも教えてく そのなかの一 軒で、

れた。それで、それまで入ったこともなかった古本屋にも、 足を踏み入れていたというのに。

黒こげチキンの次の日、 冬休みに入っていた私は朝早くから病院にいった。 見つけられなかった本のかわりに、 黒い くまのぬ

ぐるみを持っていった。

「おばあちゃん、ごめん。今古本屋さがしてる。かわりに、これ」

おばあちゃんはずいぶん痩せてしまった腕でプレゼントの包装をとき、 酸素マスクを片手で外してずけずけと言う。

「まったくあんたは子どもだね、ぬいぐるみなんかもらったってしょうがないよ」

これにはさすがにかちんときて、 個室なのをいいことに、 私は怒鳴り散らした。

入りづらいのにがんばって入ってるんだから。古本屋に私みたいな若い子なんかいないのに、それでも入ってって、 おばあちゃん、 わがまますぎるつ。ありがとうくらい言えないのつ。私だって毎日毎日本屋歩いてるんだから。 古本屋だって、 愛想の悪いお

やじにメモ見せて、がんばってさがしてるんだからっ。それにっ、おかあさんにポインセチアのお礼だって言いなよっ

おばあちゃんは目玉をぱちくりさせて私を見ていたが、突然笑い出した。私の覚えているよりは数倍弱々しい笑いではあったけ

れど、それでも⑥すごくおかしそうに笑った。

言うと目くじらたてて言い返してきたくせに、やけに素直になっちゃって」 「あんたも言うときは言うんだねえ。なんだかみんな、やけにやさしいんだもん。調子くるってたの。 美穂子なんかあたしが何 カン

「あたし、もうそろそろいくんだよ。それはそれでいいんだ。これだけ生きられればもう、充分。けど気にくわないのは、みんな、 美穂子というのは私の母である。 外した酸素マスクをあごにあてて、 おばあちゃんは窓の外を見て、 ちいさな声で言った。

う。 美穂子も菜穂子も沙知穂も、 みあってたほうがいいんだ、 相手が死のうが何しようが、 人がかわったようにあたしにやさしくするってこと。ねえ、 許せないところがあったら最後まで許すべきじゃないんだ、だってそれがその人とその人の関係だろ むかつくことはむかつくって言った方がいいんだ」 いがみあってたら最後の日まで人はいが

おばあちゃんはそう言って、酸素マスクを口にあてた。 くまのぬいぐるみを、自分の隣に寝かせて、目を閉じた。くまと並んで

眠るおばあちゃんは、⑦おさない子どもみたいに見えた。

(角田 光代 『さがしもの』より)

問 **~~~**線部 a 「口を尖らせた」、b「案の定」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれから選び、 記号で答えな

さい。

「口を尖らせた」 く ア 思い切って反論した ア 思い切って反論した

a

b

問二 す か。 本文中の言葉を使って、三十字以内で説明しなさい。 線部① 「さがしかたが、 甘いんだよ」とありますが、「おばあちゃん」 は 私」 にどのようなことを求めているので

−線部②「それ」の指す内容を、本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

最も適当なものを次の中から選び、 記号で答えなさい。

問四

線部③

「何か意地悪をしているような気持ちになってくる」とありますが、このときの「私」の気持ちの説明として

ア っている。 おばあちゃんに頼まれた本を見つけられずにいることで、楽しみにしているおばあちゃんの期待に添えず、 申し訳なく思

おばあちゃんが本当にその本を読みたがっていることはわかっているものの、本当は面倒くさいと思いながら探している

ことを申し訳なく思っている。

1

ウ 申し訳なく思っ

てい

工 普段から「私」に対して文句ばかり言うおばあちゃんの頼みだったため、 本当は本が見つからない方がいいと考えていた

ことを申し訳なく思っている。

オ たった一軒の大型書店に行っただけなのに、 いくつもの書店を回っても見つけられなかったような嘘をついて、 申し訳な

く思っている。

問五

文中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問七 線部⑥「すごくおかしそうに笑った」とありますが、このときのおばあちゃんの様子を説明したものとして最も適当

なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 中学生の 「私」が大人のような口を利きながらいかにも真剣な顔つきで怒っている様子を、からかっている。

ウ 1 懸命に母をかばう「私」の言葉を聞き、 自分にどこか遠慮がちな家族の中で、 はっきりと思いをぶつけてくる「私」の率直さをうれしく思っている。 知らない間にすっかり成長した親孝行な孫の姿に感動している。

工 家族の冷淡な接し方に戸惑いを感じていたが、「私」の言葉で孤独な気持ちから解放され、安心している。

「私」を素直に自分の言うことを聞く従順な孫だと思っていたので、反抗してきたことに驚いている。

オ

えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 死ぬことに対する不安を抱えていたが、ようやく受け入れることができ、安心している。

1 個室で過ごすのはさみしかったので、ぬいぐるみと一緒に眠れることに安心している。

ゥ 伝えられずにいた自分の心の内を素直に打ち明けることができたので、安心している。

工 家族がみんな、 自分に対して優しく接してくれていたことを思い出し、安心している。

才 酸素マスクを口にあてたことで、話し過ぎた息苦しさがおさまり、安心している。

問九 本文における表現の特徴の説明として最も適当なものを次の中から選び、 記号で答えなさい。

ア 「化けて出てやる」「縁起が悪いんだ」などの表現は、 昔からの風習にしばられて、 娘や孫に素直に接することができな

いおばあちゃんの屈折した感情を表している。

1 母を助けるために自立していく「私」の姿を強調する効果がある。 「母はうつむいてちらりと私を見た」のように、 常識がなく 私」 に頼るしかない母の弱さを読者に印象づけることで、

ウ 私 の視点から見た出来事を、 時間の流れを行ったり戻ったりしながら追うことで、 おばあちゃんと母との間で板ばさ

みになっている「私」のその時々の気持ちの違いを表現している。

工

「あたしが間違えるはずがないだろ」「さがしかたが、甘いんだよ」などのとげとげしい口調によっておばあちゃんの強

気で気 丈 な性格を表現することで、最後に見せるおばあちゃんの本心を際立たせている。

ことで、人間の命の大切さを伝えようとしている。

オ

おばあちゃんが個室に移され、だんだん弱っていく過程や、それに対して取り乱す母と冷静な「私」の対比を丁寧に描く

問

問二 ア

自分のして~がないから

(38字)

問四 問三 その人がそ В 才

С

ア

D

1

問五 才

問六

独自の体験と論理と直感

問七

(ii)(i)

うまくいかなくとも、 自分のせいではないし、いつでも言い訳が用意されているから。(39字)

自分の心に従うだけなので、 周りのことを考えなくてもよく、迷うこともないから。(37字)

Y 内にある権威

問八

(1)

X

(2)

工

外にある権威

永遠にいなくなってしまうということ

あちらこちら問い合わせて根気よく調べること。

問三 今そこにいるだれかが、 問二

何軒も店を回り、

問

a ウ

b イ

問四 ア

問五 私が本を見つけないことで、

おばあちゃんがもっと生きていてくれるのではないかという考え。

問六 母の泣き声

問七

ウ

問 八 ゥ

問九

工

(4点)

和歌山信愛中学校

入試作文 A 日 程 (午後)

V う人は \mathcal{O} 中 V に 0 は ŧ, 「自分ら 「生きていることがつまらない」と言っ しさ」 探しに こ躍起になっ て 11 る人も多い ている。 が、 方で 妙点 に冷めた態度で生きてい る人も多い そう

目 たがる人 に 11 「を閉じ を別して 考え続けら ても、 け かし、 な 11 は多 \mathcal{O} て 11 人 だ。 11 本当は生きていくうえで るだけである。 間について学べ れ る 好き嫌 る \mathcal{O} 0) と同じであ 何 カ を基準に好き嫌いを決め V できるほど偉 るはずなのだ。 V る。 0 たい 「嫌い」 何を基準に振り 「つまらないこと」などほとんどない 11 \mathcal{O} に振り か。 多くの人は学ぶ力、 7 いるの そんな乱暴なことをして、 分けた半分の 分けているのか。 か。 好き嫌いを簡単に 情報を捨ててい 学ぶ気がないから 不思議である。 自分の生きている意味、 のである。 つけてしまうことは、 るのだか 「これはつまらない」「これ どん 「私はこれが好き」 ら。 な活動をして 人間は 好き嫌 自 僕に言わ 分とは、 11 嫌き 11 など持 せ 何かをまとも f れ ŗ, ば、 11 何 いと と言 をして ては 半分 11

決 見 究極まで突き詰めてしまえば、 めら 0 けら あ れ \bigcirc るとい れる。 人のことは好 う、 ****\ いところも、 まったく同 き 「あ 11 悪いところも見つ なぜ嫌い じ目に遭うの 9 は 嫌 11 な の などとたい か、 だ。 よくわ ·ける。 なぜ好き嫌い て からなくなるはずなのだ。 人 V 間関係を好き嫌い \mathcal{O} がある 人は言う。 \mathcal{O} か。 僕に 嫌いな で決める は 人の 性格であ 好 人間 き嫌 は、 V る は 理由を言ってみてほし 他 な 人か 1 ら好き嫌い 必ず 11 11 で ところを 物事を

れ で も好き嫌い を簡単に 口にし、 周りに敵 か味方か 0) * Vツ テルを貼る人間は多い

に言わせ れ ば、 そういう 人は脳 \mathcal{O} * 丰 t パシティ、 情報処理能力が 乏し 11 から、 たくさん情報が 入っ てくると混

てしまうのだ。 だから、 好 き嫌いを先に選ぶしかない。 あらかじめ 「ここしか見ない」と※ フィ ルタリングしないと頭が

パンクしてしまうのだ。

11 るかもしれな を見ようとする態度で 好 き嫌 11 は、 \ \ \ 入ってくる情報の量を制限 それは勘違い はない。 だ。 「好き嫌い 僕は好き嫌いなどない があ Ļ 0 考えやすくするためになされる行為である。 たほうが、 が、 個性が出る」 十分に 「個性的だ」と言われている 「それがこだわ り、 L 個性だ」 かし それ などと言う人も は ものごとの真

(石黒 浩 『アンドロイドは人間になれるか』より)

注 ※レッテルを貼る … 一方的にある評価を下すこと。

※キャパシティ … 容量。

※フィルタリング … 不要なものを選別して取り除くこと。

和歌山信愛中学校

入学試験 B 日程

哲 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

この問題冊子は1ページから21ページまであります。 開始のチ ヤイ ムが鳴ったら、 確認 して始めなさい。

三 解答は、 すべて解答用 紙に書きなさい。

問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。

受験番号は、

兀 終了のチャイムが鳴ったら、 いたまま裏返して置きなさい。 問題冊子の上に、

開

解答は、 句読点や記号も一字分と数えて記入すること。)

受験番号

解答用紙を

【一】次の問いに答えなさい。

問一

1) \(\) (6) \(\mathcal{O} \) −線部のひらがなを漢字に直しなさい。また、⑦~⑧の━━━線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 成功は努力のしょさんだ。
- ② 街をさんさくする。
- ④ こいにぶつかってきた。

3

制度のこんかんに関わる問題だ。

- ⑤ゆうほどうを歩く。
- ⑥ たんじゅんめいかいな説明だった。
- ⑦深窓の姫君。
- ⑧ 会長に判断を委ねる。

足

身

をみる

使えません)。

1 予定が変わったら、電話()メールでお知らせします。

勉強をがんばった。()大学に合格できたんだ。

3

2

4

このケーキ屋さんは安くて、()おいしい。

日本には古風な「月の呼び名」がある。()十二月は「しわす」である。

ウ 才 だから だが 力 工 または たとえば ア

しかも

イ

ところで

と同時に、森が何の罪悪感もなしに伐採され、無造作に自然破壊が行われるようになったのです。 後、西欧文明が入ってくるとともに、効率が優先されるようになり、心のよりどころのひとつであった宗教的意識が薄らぎました。 日本では、 人びとは太古の昔から、 深い森や老大木に対して、恐れや畏敬の念を抱いていました。しかし、 明治維新あるいは戦

ちる、日陰になる、 要求するケースが増えています。 ここ十年くらいでやっと、生活のゆとりからか、郊外にあるニュータウン周辺などでは、 虫が来るという理由から、役所などに伐採の依頼をしてくる数も少なくありません。 しかし、 それも見た目だけの緑を求める場合がほとんどです。植えた木が大きくなれば、 裸地や荒れ地を見かねて市民が緑化を 葉が落

来 私はここで、森を畏怖していた昔へ戻るべきだと言いたいわけではありません。そうではなくて、現代なりの、 のための森に対する理解の仕方があると、訴えたいのです。 また明日 (近未

あっても人間の生活にとってよいことがないじゃないか」という結論に達してしまうかもしれません。 それは、①生理学的理解です。森に対する知的なアプローチがないと、単に②しに見える不便さだけをあげつらって、 「樹木が

動物や植物と同様に様々な縁でつながっています。地球上の生き物は、お互い複雑に関係し合いながら生きているのです。人類は、 どんなに経済的に発展し、多くのものを所有して物質的欲望を満足させたとしても、 地球上に生かされている限り、 人間 も他

決して独立して生存しているわけではないのです。

り永遠に続く冷厳な事実なのです。

はできないでしょう。 万が 人間がすべての生物、 ヒトは森の寄生者の立場でしか、 植物を抹殺してしまい、 持続的には生きていけないのです。これは、 人類だけの地球にしてしまったとしたら。 人類が地球上で生き延びる限 われわれは生き延びること

上で価値物が たちは持続的に生きていけるのです。 炭水化物や脂肪をつくり出すことができます。 なければ、 森は、 人の 地球上では私たちを含めた動物の何人も、 重量の何百倍、 唯 一の生産者であることは間違いないのです。 何千倍、 ときには何万倍もの炭素を蓄え、 森は私たちのように、 そして植物起源の材料が持続的に供給されるときのみ、 現在の生活を支えることができません。 おし やべ りではありません。 人間 より何億年も前から生きています。 何の理屈も語りませ 緑の植物だけが、 われわ ん。 れ 光合成によって 森が持続してい 人間 L や他 カコ 0 地 動 球

の中でしか生きていけない、 水に溶けたミネラルは植物が根から吸収し、再び植物の生育に使われます。 ニ類などによって摂取され、 植 :物がつくった有機物によって、 とても弱い存在なのです。 分解されます。 すべての さらにはカビ、 動物は生き延び、 バ その死骸や排泄物は、 クテリアなど無数の微生物によってミネラルに還元されるのです。 人間はどんなに威張っても、 地面や土中に棲むワムシ、 ⑤ 植 物 (森 アリ、ミミズ、ダ 0 消費者の枠

※ 森は、 東京、大阪、 に栄養を供給しているのです。※ 落ちるような土石流や鉄砲水を起こさせません。 木陰に入ると、 ように水を含んで、ゆっくりと浄化していきます。台風や洪水のときはまるで生きたため池のようになり、 える働きがあります。 緑のフィルターとして、大気汚染をある程度浄化してくれます。そのうえ、気候の急激な変化も緩和します。たとえば、 横浜、 緑がつくったひんやりとした空気がながれています。 名古屋などの大都市では、夏の夜間気温が下がらないヒートアイランド現象が起きていますが、 東京都心で言えば、真夏の新宿御苑の温度は、 そのうえ、 森から川や海に流れ込んだ水は、 新宿駅前の温度と一~三度の開きがあるはずです。 森の落ち葉の下にある腐植質に富んだ土壌 良質な有機物を含み、 裸山から は、 森はそれを抑 海の生物たち いっきに流れ スポンジの

医学ではまだ十分解明するにはいたっていませんが、 日でも二日でも過ごすと、 森は人びとの感性的な喜びと落ち着き、 晴 れ晴 れとした気持ちになり、 感動や未来への発展の意欲を潜在的に高める基盤といえます。 樹木の出すフィトンチッドなどの物質のせいなのかもしれません。 明 日 0) 希望に満ち あふれるのはなぜでしょう。 現 在 の科学 たとえば、 技術 森で

した新参者に過ぎません。人類も他の動物と同じように、誕生当初は森の中で狩りをしたり木の実や若草を採集したりしました。 現 在 地 球上で繁栄を謳歌している私たち人類は、 三十数億年という地球上の 「生命の歴史」 から見れば、 最後にやっと登場

A 」これが人類による森の破壊のはじまりでした。

の森まで奪い、 足させているといえるかもしれません。 育てる、そして壊すという技術を習得しました。現代社会の人々は、不老不死以外、 われわれ 現代人はどこか物足りなさを感じ、 人間は、 人工環境、 森を破壊することによって文明を築いてきました。五百万年の歴史の中で頭脳を発達させ、 人工都市の形成にわき目もふらずに突き進んでいます。 それでも人間の欲望は、 未来に対して夢を失っています。そうしたことを考えると、 とどまることを知りません。 方で、これほどの物質文明の中に暮らしなが 知的、 感性的、 地球に残されてい ⑥ 進歩とは何かを問わざるを 肉体的欲望のほぼすべてを満 考える、 る、 わずか な最後

思うのです。 どの人工物や、 得ません。 今一度人間固 ーの源として、 生活環境を持続的に保障するためには、 画一的で無機的な空間に即座に対応できるほど、 最も森をつくらなければならない場所は、 (7)都市林の再生こそ、 有のすぐれた知性や感性を研ぎ澄まして、 各種エネルギーを使っていかなければなりません。 本物の緑 の環境が必要なのです。 都市が生き残る基本であるといえます。 人工的な材料で造られた都市にこそ、 私たちが便利な生活を維持し続けていくためには、 生物としての人間は短い時間で進化する力をもっていません。 山地ではなく、 明日のために今何をなすべきかを真剣に考えなければ 人口が集中している都市です。 時には自然も開発しなければならないでしょう。 知性や感性、 明日に向か 現代の新技術を駆使してつくった 今後も、 って発展する知的 \ \ 鉄やコンクリートな 心身ともに豊かな けない だからこそ、 のだと私は エ ネル

(宮脇 昭 『木を植えよ!』より)

問一
線部①
「生理学的理解」
とは、
どういうことですか。それを説明した
た次の文
0
に当てはまる内容を、

本

文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。

生物は
(二十字以内
) ということを理解するこ
کی

問二 線部② 「目に見える不便さ」とは、 具体的にどのようなことを言っていますか。 本文中の言葉を使って答えなさい。

問三 その理由として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。 - 線部③「人類だけの地球にしてしまったとしたら、われわれは生き延びることはできないでしょう」とありますが、

ア 人類は、 植物が供給してくれるものによって生存することができるから。

イ 小さな虫であるとしても、生物社会のシステム維持に役割があるから。

ウ 森は、 何億年も前から生きていて、人類よりもずっと長生きであるから。

工 人類に必要な植物の生育には、 微生物が還元したミネラルが必要だから。

オ

経済的な発展はしたものの、

人類は森起源の材料にたよる存在だから。

- 7 -

四十字以内で説明しな

問五 線部⑤ 「植物 (森) の消費者」と同じ意味で使われている言葉を、 本文中から五字以内でぬき出しなさい。

問六 本文中の 🔀 ~ 🔀 の段落について、グループで話し合いをしました。次の対話文の【 a b

てはまる内容を、 本文中の言葉を使って、それぞれ十五字以内で答えなさい。

Aさん「この段落は、森の働きを挙げている段落だと思います。」

Bさん「たくさん挙げられているけれど、いくつあるのかな。 えっと大気汚染を浄化すること、それから……。」

Cさん「気候の急激な変化を緩和することもそうだね。」

Eさん「土石流や鉄砲水を防ぐことも、森の大切な役割だね。」

Fさん「それから【 b 】ことも忘れてはいけないから、 森の働きとして挙げられているのは全部で五つだね。」

に当

問七 本文中の Α には、 次のア〜エの文が入ります。 意味内容が通じるように並び替え、 最初から順に

記号で答えなさい。

ア そのため、 人間たちは森を伐り開いて田畑を開墾し、 集落を形成しはじめたのです。

1 そのうち、 焼き畑による雑穀を栽培、さらには水田耕作なども行うようになり、 定住生活を営むようにもなりました。

ウ 今から一万年前、 最後の氷河期が去って、人類は火を使うようになり、徐々に石器や鉄器などもつくり出します。

エ こうなると、森は生活するにはむしろ不便でした。

問八 **■**線部⑥ 「進歩とは何か」と筆者が疑問に思ったのはなぜですか。 それを説明した次の文の Ι

 \prod に当てはまる内容を、本文中の言葉をぬき出して答えなさい。

進歩によって、現代社会は【 Ι のに、 Π いるから。

問九 線部⑦ 「都市林の再生」とありますが、 都市の人間にとって「都市林」とはどのようなものですか。二十五字程度で

ぬき出して答えなさい。

 \equiv う同級生で、「順子さん」はショウコの母親です。 次の文章は、 梨木香歩の小説『渡りの一日』の一節です。中学二年生の「和邇ショウコ」と「加納まい」ない。 以下を読んで、後の問いに答えなさい。 は同じ学校に通

「加納さんが迎えにきてるわよ。いつまで寝てるの」

母親の順子さんにむりやり布団をはがされて、ショウコはくしゃみした。最近急に冷え込むようになった。秋も深まりつつある。

「ああ、寒い。風邪ひくじゃないか、もう」

「外で待っている加納さんの方がよっぽど寒いわよ」

もと婦人警官の順子さんは、やることがラフだ。

「早くしなさい。ああ、もう。中に入っていてもらおうかしら」

「だいじょうぶだよ。別に何時までに行かなきゃならないってことはないんだから」

ショウコはあくびしながら、もう一度布団に潜り込もうとして、順子さんにぐいっと腕を捕まれ、上半身を起こされた。

「もうお昼なのよ」

ドスのきいた声音で告げられると、起きないわけにはいかなかった。

洗面を済ませて、茶の間に入ると、すでに引きずり込まれた加納まいが待機していた。

おはよう」

ショウコは目覚めた直後のかすれた声であいさつした。

「もうお昼よ。 今日の日曜日は昼間から杖指山に登って、サシバの渡りを見ようって前から言ってたじゃない」

分の側に非がないとわかっているときは、 ①口調とは裏腹に 加 納 ま V \mathcal{O} 顔は穏やかだった。こんなことでいちいち腹を立てていては到底ショウコとはつきあえない。 物事に寛大になれる。 自

「今からじゃ無理か」

ショウコもさすがにすまなそうだ。

「秋の陽は落ちるのが早い。登って、降りて来るのがせいぜいだと思う」

「ほんとにこの子ったら。ごめんなさいねぇ、 加納さん。 よかったらお昼食べていって」

そう言うと、順子さんはまいの返事も待たずに台所に消えた。

あって、いつも羊羹や煎餅などが入っている。 られた畳に、どっしりした欅の※水屋が置いてある。 まいは、 ショウコの家の茶の間が好きだ。いつも。佃煮のようなにおいがかすかに漂っている。 切れていたことがない。 濡れたような艶の、 ショウコはいつも当然のように水屋を開けて、 木目が美しい。その中には、 新しくはないけれど、 蓋付きの漆 a 目ぼしい の菓子鉢が 拭き清め

「②いいわね」

ものを口に入れる。

今日もそうした。

「え? 食うか?」

ショウコは意外そうに、今りまさに口に入れんとしていた煎餅を差し出した。

「そうじゃなくて」

まいは煎餅を押し戻しながら、ためいきをついた。

長時間の煮炊きは資源の無駄、 まいがつくったものだったら(どんなに時間がかかっていて健康に悪そうでも)ママは喜んで食べる(この辺が少し理不尽 の家は、 ほとんど料理には時間をかけていない。 おまけに食品の栄養を損なう、と思っている。だから、むしろ料理はまいの管轄になってきて ママが働いているのと、 無駄を嫌う性格のせいだ。 甘ま ĺ١ もの は健康に悪い

に、とまいはいつもあやしんでいる)。

つも菓子鉢をいっぱいにしている母親の気遣いなど、ショウコは考えたこともないのだろう。その守られた環境を、 まいはう

らやましいと思うのだ。煎餅が欲しいのではなくて。

食事の後、順子さんは、急に思い出したように言った。

「そうだ、展覧会の券が二枚あるの。 もし加納さんも予定がないんだったら、ショウコと二人で行ってこない? 今日までなの」

順子さんは、 水屋の下の引出しからごそごそと、二枚のチケットを取り出した。

「ああ、その画家なら知ってます。私、行きたかったんだけど、チャンスがなくて……」

まいの目が輝いた。

「あら、 よかった。 悪いけどついでに画集買ってきてくれない? ちょっと重いけど……」

しいてすよ

軽く請け合ったまいに、③ショウコは眉間にしわを寄せた。 順子さんは、そそくさと立ち上がった。

「最終日は、早く終わるかもしれないから、じゃあ、もう出かけた方がいいわ

まだパジャマ姿で髪もとかしていないショウコは追い立てられるようにして二階へ上がり、上がったかと思ったらすぐに降りて

きた。すでに着がえている。

とトレーナーに着がえ、 のことは、だいぶ前から計画をたてていたのに。 プルさは 憧 れるけど、真似は出来ない、とまいは思った。それにしても、今日のショウコはなんていいかげんなんだろう。今日 て、リップクリームだって塗らなくちゃ。もっていくもの、バッグに詰めて……。 私のママだったら、身支度に一時間はかかる、とまいは思った。まいだって、十五分はかかるだろう。服を選んで、髪をとかし いつも必要最小限のものが入っているポシェットをひったくるようにして降りてきたんだろう。そのシン ショウコはきっと、最初に目についたジーンズ

な鳥が好みだった。サシバの渡りにこだわっていたのは、むしろショウコの方だったのだ。そのショウコがこんな有様なんだから。 しようがない。 行ったって、 サシバの渡りが見られる確率は五分五分だっただろうし、 まいはもともともっと小さ

平気な顔をして横を歩いているショウコを、 まいは非難がましく見つめた。立てたプランがだめになるというのは、 まいにはス

トレスなことなのだ。

「あんた、ほんとに展覧会なんか行きたいのかよ。母親のためにああ言ったんじゃないのか

まいの非難にはまったく気づかぬ風でショウコはぶつぶつと言った。ショウコは展覧会なんかには、 はなからまったく興味をも

Ī

っていない。

私、 前からほんとうに行きたいと思っていたし、おばさんのご用がたせて、役に立てたらうれしいじゃない」

「ほう」

ショウコは短い感嘆詞をあげ、あげたきり何もコメントしなかった。

人の役に立ててうれしい、なんて、普通は、言わない。言っても、まわりをシラけさせるだけだし、優等生ぶって、と攻撃され

るのがオチだからだ。

ショウコは、

口は悪いが、何事によらず、④異なる文化の香りに出くわすと、まず「ほう」と言った。

二人でバス通りの方へ歩いていくと、角のバス停のところで猛スピードで走ってきた自転車とぶつかりそうになった。自転車は、

ハンドルを切り損ねて横転した。

「いってえ」

乗っていた男の子が膝を抱えた。

「あれ、藤沢君じゃない」

「およ、ワニと加納」

和邇、というのはショウコの姓の方だ。藤沢君は同じクラスの子だ。

「あやまれよ、おめえら」

「あんなスピードで、まわりも見ずに飛ばしてきたおまえの方が悪いだろう。 自業自得だ」

ショウコは洟もひっかけない。そのまま通り過ぎようとする。

「ちょっと待ってよ。なんであんなに急いでいたの?」

まいは、 ショウコを引き留めて、 藤沢君に声をかける。 足をくじいたらしい。顔をしかめながらうめくように話した。

「杖指ユナイテッドの練習試合がもうすぐ始まるんだよ。下の兄貴がメンバーなんだけどうっかりしてユニフォームをまちがえて

もっていったんだ。 電話がかかってきて、大急ぎでもってきてくれって。練習試合ったって、 相手は隣の県からわざわざやって

「どこであるんだ?」

くるんだから、

ユニフォーム着てなきゃ失礼だろ」

ショウコが思いがけず興味を示してこう聞いたとき、 まいの心に⑤嫌な予感がよぎった。

「新しくできた市立競技場」

「え、あんなところまで自転車で行くつもりだったの?」

その市立競技場というのは、 山の中腹を切り開いて最近出来たもので、 ショウコたちの住む町とは、 駅を挟んでまったく反対側

に位置している。バスだって、一日に何便も出てないに決まっている。

「あ、バスが来た」

「うっそお」

なるほど、 向こうの四つ角で車体を新しく塗りかえたバスが信号待ちをしている。

「ほら、市立競技場行きって書いてある」

「うっそお」

ショウコとまいが慌ててバスの時刻表を見ると、 確かに真新しい「市立競技場行き」 の時刻表が貼ってあった。 競技場のオープ

ンに伴って新設されたらしい。が、まだ一日に三本しかない。

「貸しなよ、それ、行ってやるよ」

「え?」

まいと藤沢君はあっけにとられた。 ショウコは藤沢君のもっていた紙袋をもぎとった。

「あんた、足くじいたんだろ」

それから、まいに向かって、

「(あんた、人の役に立つのが)好きなんだよ、な」

まいの頰は、 ショウコは肝心のところをはしょって言わない、という悪癖があって、これまで何度あらぬ誤解を受けてきたことかしれない。 一瞬怒りのために紅潮した。もとよりショウコの言おうとしていることは分かっている。それも、

の、「おばさんの役に立てるんだったら……」発言の揚げ足を取るつもりではなく、もしかして、ショウコは、本気でまいがそう

することを望んでいると信じているのかもしれない。

だがまいもそれほどお人好しではない。今だって、「それはたいそうおきのどく」と終わって通りすぎるつもりでいたのだ。

りもちにくっついた葉っぱのように引き寄せられたのだ。おそらく本人も意識してないと思うけど。なのに、まるで、まいのため まいにはわかっていた。ショウコは最初っから展覧会なんか行きたくなかったのだ。「サッカーの練習試合」という言葉に、と

の選択のようにもっていこうとする、 ショウコの(無意識のずるさに、まいは腹を立てたのだ。

バスが止まってドアが開いた。

「さあ、急ごう」

あっというまにショウコはバスに乗り込んだ。 仕方なくまいも後に続いた。

取り残された藤沢君の頭の中では、 ショウコの「好きなんだよ」という言葉が反復していた。

さっきのまい

かったなあ。そういう場合、どっちかを選んだら、彼女らの友情にひびをいれることになるんだろうか。ワニはあんな奴だし、加 よな。いや、待てよ、 ……知らなかった。 ワニの奴、 加納がまっかになってたぞ。もしかして加納が……。いや、二人ともっていう可能性もある。 俺のこと、好きだったのか。そうか、そうだよな、そうじゃなきゃ、誰がここまでしてくれるか。 ああ、 知らな

藤沢君は、 やっとの思いで自転車を立たせると、足を引きずりながら、 深刻な顔つきで帰路についた。

⑦誤解は人生を彩る。

納はちょっと暗いしなあ……。

(梨木 香歩 『渡りの一日』より)

注 * サシバの渡り サシバというタカ科の渡り鳥が、 生息地を変えるために飛び立つこと。

※ 水屋 … 台所の戸棚。

間 *********線部 a 「目ぼしい」、 b「まさに口に入れんとしていた」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、

記号で答えなさい。

a 「目ぼしい」

ウ 見つけるのがはやい

1

目ざましい

ア

うまく見えない

エ めずらしい

オ めだって惹かれる

b 「まさに口に入れんとしていた」

ア 勝手に口に入れようとしていた

イ 口に入れないようにしていた

ウ すばやく口に入れようとしていた

エ ちょうど口に入れようとしていた

オ 口に入れることを迷っていた

問二 線部① 「口調とは裏腹に、 加納まいの顔は穏やかだった」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中か

ら選び、記号で答えなさい。

ア 昼まで寝ているといったルーズさを許せなくて怒ってみたが、何を言ってもきかないショウコにうんざりしているから。

1 常にいいかげんな言動をとるショウコに抗議はしたものの、自分には悪いところがないとわかっているため余裕があるから。

ウ ショウコに苦情を言われたまいが、いちいち細かいことで腹を立ててくるショウコと距離を置こうとしているから。

オ エ 約束を守らないショウコに腹を立てたが、 サシバの渡りを見に行けなかったのはショウコのせいなのに、ショウコが怒りだしたので、機嫌をとろうとしているから。 いつもいいかげんなショウコには言っても仕方がないとあきらめているから。

−線部②「いいわね」とありますが、「まい」はどういうことに対して「いいわね」と言っているのですか。三十五字

以内で説明しなさい。

問四 線部③で「ショウコは眉間にしわを寄せた」とありますが、その理由として**適当でないもの**を次の中から二つ選び、

記号で答えなさい。

ア 重い画集を買ってこなければならなかったから。

1 お菓子を結局食べられないままになっていたから。

ウ まいが母の言うことをすぐに承諾したから。

見たかったサシバの渡りを見に行けなくなったから。

工

オ 展覧会に行くことを勝手に決められたから。

線部④

「異なる文化の香り」とありますが、ここでは具体的にどういうものですか。

その説明として最も適当なもの

を次の中から選び、 記号で答えなさい。

ア 人の役に立てたらうれしいなどと当たり前のことをわざと優等生ぶって言うというもの。

1 人の役に立てたらうれしいなどと格好つけて言い、あえて場をシラケさせるというもの。

ウ 人の役に立てたらうれしいなどと言うことで、皆に尊敬されたいと思っているというもの。

才 工 人の役に立てたらうれしいなどと普通は言わないことをわざわざ口にするというもの。 人の役に立てたらうれしいなどと本音ではないことを、 あからさまに言うというもの。

問六 線部⑤ 「嫌な予感」 の説明として最も適当なものを次の中から選び、 記号で答えなさい。

ア ショ ウコが新しい市立競技場に自転車で行きたいと言うのではないかという予感

1 ショウコが心変わりして展覧会に行きたいと言い出すのではないかという予感

ウ シ 彐 ウコ がひそかに好きな藤沢君のためにいい子ぶるのではないかという予感。

オ エ シ 彐 ウコがサッカーの試合会場に行きたいと言い出すのではないかという予感 ウコが行方不明のユニフォームを探しに行くと言うのではないかという予感

ショ

- 線部⑥

として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

「無意識のずるさ」とありますが、ここではどういうことを「無意識のずるさ」と言っていますか。

その説明

るという形にしたこと。

イ

ア

ショウコが展覧会に行きたくないからユニフォームを持っていくだけなのに、

まいが人の役に立ちたいためにそうしてい

競技場にユニフォームを持ってい

ショウコがまいの「おばさんの役に立てるんだったら……」という気持ちを無視して、

くと言っていること。

ウ ショウコがサッカーの練習試合を見に行きたいだけなのに、 まいが藤沢君のことを好きだからユニフォームを持っていく

という形にしたこと。

エ ショウコは新しくできた市立競技場を見に行きたいだけなのに、 ユニフォームを持っていってあげることで自分だけいい

子になろうとしたこと。

オ ショウコは自分が格好をつけたいからユニフォームを持っていくだけなのに、それをまいが練習試合を見たいから持って

いくという形にしたこと。

ア

記号で答えなさい。

藤沢君を好きになったという事実が、ショウコの人生を豊かなものにしてくれるということ。

1 藤沢君が人間関係で悩み続けることは、彼の人生に深みを与え、彼を成長させるということ。

ウ 二人の女の子から好かれていると思い込むことは、藤沢君の人生を楽しいものにするということ。

才 ショウコとまいは、 藤沢君が勘違いしているということを知らない方が幸せだということ。

ショウコが藤沢君を好きになってしまっても、それはしょせん実らぬ恋にすぎないということ。

工

問九 本文を読んで、意見発表を行いました。本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、 記号で答えなさい。

ア Aさん「この小説を読んで、ショウコとまいの気持ちがどんどん近づいていく様子にとても感動したよ。」

1 B君「途中から藤沢君が出てきて、ショウコが彼に『好きなんだよ』と告白するところにびっくりしたなあ。」

ウ Cさん「読んでいくうちに視点となる人物がいつの間にか変わっているけれど、それがおもしろいところだね。」

工 Dさん「それぞれの登場人物のそれぞれの気持ちが風景 描 写で表されているところが、うまい書き方だね。」

オ E君「『羊羹』とか 『煎餅』とかが主人公の気持ちを象徴的に表しているところが作品を魅力的にしていると思う。」

玉 B 日 程

問一	7 – 3	問三	問二			 -		
お		1	物	肩		5	1)	_
互.		カ	心	身		遊	所	
٧١			が	が		歩	産	
複		2	つ	せ		道		
雑		ア	<	ま				
に				٧١		6	2	
関		3				単純	散	
係		オ				明	策	
L			足	路		快		
合		4	元	頭				
٧١		エ	を	に		7	3	
な			み	ま		l	根	
が			る	ょ		ん 7.	幹	
Ġ				う		そう		
生								
き						8	4	
て						ゆ	故	
\ \						だ	意	
る						Ja		受験
						ね る		
								7

問 八		問七		問六	問 五	1. D	 日
П	I		b	a	森	脂	緑
現 代		ウ	海	水	0	肪	の
代 的 人 成		0	を	寄	を	植	
どこ	ど し い い 、		生	ゆ	生	2	物
か 物			物	2	者	<	だ
足り	体的		た	<		ŋ	け
な	欲望		ち	ŋ		出	が
さ を 感	のほ	工	に	٤		す	`
じ、	ぼす		栄	浄		7.)	光
未来に対	べて		養	化		٤	合
	を 満		を	す		が	成
して	足さ		供	る		で	に
夢を	せて		給			き	よ
失っ	いる		す			る	2
て			る			ک	て
						٧١	炭
			ے ب	ے ک		う	水
			ع	ع		۲	化
						ک	物
لا	の					0	や
るから。	に、						

問三

ウ

問二

木 が

育 0

た結果、

葉が落ちたり

日陰に

なっ

たり

虫が

来たりすること。

問 八 ———————————————————————————————————								
	П	I						
	現代人はどこか物足りなさを感じ、未来に対して夢を失って	知的、感性的、肉体的欲望のほぼすべてを満足させている						
	いる。	のに、						

	ほ ナ		
	ネ	知	Ι
	ル	性	
	ギ	P	イ 人 に
	Î	感	٤
25	0)	性	カ 牧
	源	`	反 y
		明	7
		日	を見
		に	ָ֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖֖
		向	末 来
		か	は文
		つ	1
		て	夢を
		発	少
		展	7
		す	
		る	
		知	
		的	
		工	l る カ

問七	問五	問四	問三		問一	
			れ	母	a	
ア	オ	イ	た	親	オ	
			環	が		
			境	٧١	b	
問	日日	工	に	つ	工	
八	問六		シ	ŧ		
			3	気		
ウ	オ		ウ	遣	HH	
			П	٧٧	問二	
			が	を		
日日			٧١	し	1	
問 九			る	て		
			ĸ J	<		
ウ			ك	れ		
			0	る		
				よ		
				う		
				な		
				<u></u>		